保存版

市政協力委員の皆様へのお知らせ

市政協力ニュースレター

■　２０２３年　錦秋号　■

地域に関連する情報などを掲載していますので、
保存して日々の活動にお役立てください。

京都市
CITY OF KYOTO

市政協力委員代表者会議を開催

令和５年７月31日、各区市政協力委員の代表者36名にご出席いただき「市政協力委員連絡協議会代表者会議」を開催しました。

会議では、代表幹事に村井信夫委員(伏見区)、代表副幹事に山本安一委員(上京区)、鈴木義康委員(右京区)、田﨑文吾委員(東山区)の選出が報告されました。

村井代表幹事

村井代表幹事から、「コロナ禍を経て、これまで築いてきた地域力をいかに継続、発展させていくかが問われており、このような時こそ、地域が一丸となることが重要である。私たち市政協力委員は、積み重ねてきた実績と培ってきたネットワークを十分に活かし、率先して市民の先頭に立ち、行政とともに汗をかきながら、地域コミュニティの活性化に向けて努力を続けていくことが何よりも大切である。」とご挨拶いただきました。

門川市長

また、髙田 行紀 文化庁参事官(生活文化創造担当)による講演「文化庁の京都移転について」及び前田 昌弘 京都大学大学院人間・環境学研究科准教授による、講演「地蔵盆と地域コミュニティの継承」等を踏まえ、門川市長からは「地域住民の皆様と行政を繋いでいただいている、京都ならではの市政協力委員制度。委員の皆様へ御礼申し上げる。皆様をはじめ、あらゆる関係団体と連携を深めながら、文化庁が京都に来てよかったと思っていただけるように取り組んでいきたい。また、地蔵盆は京都の文化と歴史の象徴であるとともに『こどもまんなか社会』の象徴であり、京都の宝である。」とご挨拶しました。

山本代表副幹事

閉会に当たり、山本代表副幹事から、「本日は、文化庁の京都移転や地蔵盆をはじめとする地域活動に係る事例を共有し、また、最新の京都市政の動きを知ることができる貴重な機会であった。本日共有された情報については、地域に持ち帰り、まちづくりに活かしたい。」とご挨拶いただきました。

地蔵盆と地域コミュニティの継承について

1 地域コミュニティにとって地蔵盆とは？

地域コミュニティの「媒介」

時代とともに変化する地域社会にあって、それがあることでコミュニティの関係を人々が認識できるような存在

人びとの「想像力」の源

人それぞれの想像（理想や可能性を描き現実に投影すること）を喚起し、人々の「共通の関心」をもたらす存在

地蔵盆を通した地域コミュニティの「活性化」

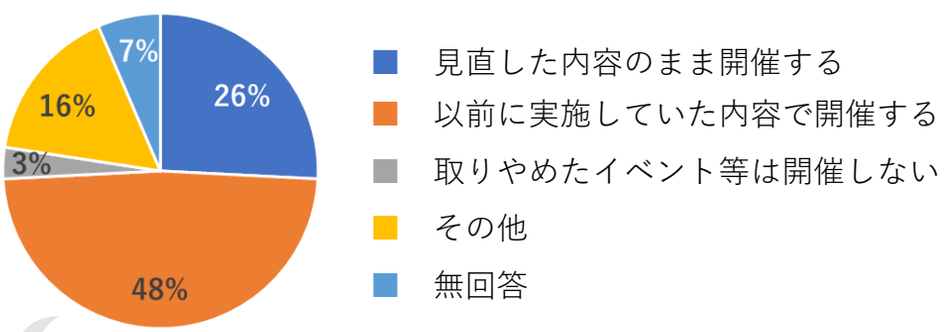
地蔵盆を通じて、多様な人々が参加する機会を設け、地蔵盆を継承することが結果的に、地域コミュニティの「活性化」につながる

代表者会議では、前田昌弘 京都大学大学院人間・環境学研究科准教授、京都市地域コミュニティ活性化推進審議会副会長から、代表者の皆様に事前にご回答いただいた「地域活動に関するアンケート」の内容等を踏まえ、地蔵盆と地域コミュニティの継承について、ご講演いただきました。
各地域で工夫されている事例紹介等も含まれていますので、参考にしていただければ幸いです。

2 地域活動の工夫事例を紹介します！

調査時期：令和５年７月　対象者：市政協力委員連絡協議会代表者39名

Ｑコロナ禍の影響を受け、休止や規模を縮小して開催されていた会議やイベントについて、今年度の開催の有無や方法はどうされますか。



令和５年度は７割以上の地域でイベント等を開催される予定という結果に。
各地域では、地蔵盆や地域活動においてどのような工夫をされているのでしょうか。

地蔵盆での工夫事例

※　新型コロナウイルス感染症流行前の各地域での工夫事例

こぢんまりとでも続ける

お経を唱えてもらい、お菓子を配るだけにしている。最小限の時間と空間で、無理のない範囲で行事を継続している。

多様な住民の交流

マンションの建設により転入してきた子育て世帯に地蔵盆への参加を呼び掛けたことがきっかけで、地域活動の参加の入口に。

大人だけで

町内に子どもはいないが、大人だけで実施している。地蔵盆は、大人がお互いを見守りあうような場所となっている。

外に開く・広げる

・デイサービス等の一部を借り、地域住民と施設利用者が一緒に参加している。
・学区単位で実施している。

安心・安全の取組

地蔵盆という人が集まる機会を活用し、消火訓練やＡＥＤの講習を一緒に実施している。

地蔵盆は…

・盛大にもささやかにも実施できる**柔軟性のある行事。**
・誰もが参加しやすい場であり、人々が**地域コミュニティに関わっていく入口**となり得る。

地域活動での工夫事例

関係団体との連携

・**社会福祉協議会や自主防災会等と協力**しながら会議やイベントを実施している。

・**近隣の大学と連携し、学生が地域活動へ参加できるような仕組み**を作っている。

・選挙の際に、**投票所従事者や片付けスタッフとして、地元の学生に協力してもらう**ことで、**地域へ目を向ける機会を設け、地域活動への参加の布石**になればと考えている。

・**地域のイベントに協力的な若者を自治連合会に勧誘し、イベントの企画や実行に関与**してもらっている。

地域のつながり

・**市民しんぶんを配布する際、心配な高齢者等については手渡し**するようにしている。

・**常日頃より地域の方に声かけ**をしたり、会議内で地域の話題を話すことで、コミュニケーションが図れるよう心掛けている。

・**地域のホームページを開設**し、行事のお知らせや報告を行っている。

・役員間の連絡手段として**ＬＩＮＥを活用**している。

・**他学区とのコミュニケーション**を大切にし、有意義な取組は取り入れている。

3 地域コミュニティの継承にあたって

前田　昌弘　准教授

・地蔵盆はコロナ禍のみならず、これまでも色々な変化や危機にさらされてきたが、柔軟に形を変えながら続いてきている。この**柔軟な対応力(レジリエンス)が地域コミュニティの継承にも影響**していると考えられる。

・**地蔵盆は地域コミュニティにおける大切な「核」であり、維持しながら守り育てる**ことが大切。

・一方で、**地蔵盆と同様に、地域にとって「核」となる存在が、それぞれの地域にある**と考えられる。それを**地域主体で見出し、多世代コミュニティづくりに活かす**ことが大切。

文化庁の京都移転について

令和５年３月に文化庁の京都移転が実施されたことに伴い、移転の経緯や移転に向けた文化庁内での取組等について、髙田 行紀 文化庁参事官（生活文化創造担当）・食文化推進本部事務局長からご講演いただきました。

京都移転の経緯

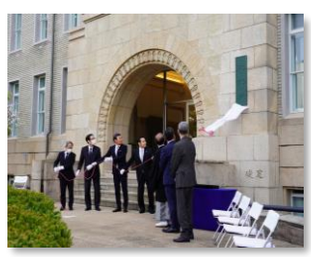
平成28年3月	文化庁の京都移転が決定
平成29年4月	文化庁地域文化創生本部が京都に設置
平成29年7月	文化庁の京都移転規模・移転先が決定
平成30年10月	京都移転を想定した文化庁の組織再編
令和元年2月	京都移転シミュレーションの実施
令和4年12月	文化庁新庁舎整備工事竣工
令和5年3月	**京都における業務開始**

京都移転に向けた取組

文化庁の京都移転を契機として、2025年大阪・関西万博への貢献も見据え、文化庁における食文化及び文化観光施策について、**文化庁長官のリーダーシップの下、関係部署相互の緊密な連携を図り、総合的かつ効果的に推進するため、令和5年3月27日に、食文化推進本部・文化観光推進本部が京都に設置**されました。

京都から食文化や文化観光などをはじめ、新たな価値を生み出し、広く世界に発信していく取組が進められていきます。

髙田 行紀 参事官



除幕式の様子

令和４年度京都市決算　持続可能な行財政の確立に向けて大きく前進！

単年度での実質的な黒字達成

令和4年度決算は、市民の皆さまのご理解・ご協力により、21年ぶりに赤字補てんのための特別の財源対策を行うことなく、22年ぶりに黒字（77億円）となりました。市の借金（市債）の残高も着実に減らしています。

今後の財政運営

過去負債※の返済や、高齢化による社会福祉関連経費の増加の見込み、景気変動の懸念など、依然、油断できず、今後も財政は厳しい見込みです。

今後も、市民の皆さまの豊かさにつながる都市の成長戦略を加速させるとともに、将来に負担を残さない改革をたゆまず実施することで、財政難克服への道筋をより確かなものにしていきます。

黒字の活用先

・過去負債※505億円の返済
・若者・子育て世代の定住・移住につながる都市の成長戦略の推進
・物価高騰への対応　など

令和5年9月補正では、過去負債※の返済、物価高騰やコロナ禍からの回復に向けた対応、中小企業等の更なる成長支援などを実施！

※過去負債
これまで、赤字補填のために、公債償還基金（将来の借金返済のための積立金）から取り崩してきたもの。今後返済が必要な総額は505億円。2038年を目途に、高齢化がピークとなるまでの、できるだけ早期に返済し、将来世代の負担を軽減します。

令和4年度決算概況は
京都市情報館に掲載しています。

自治会・町内会向けＳＮＳ「いちのいち」

現在、市内では約30団体※開設されているなど、地域のデジタル化が進み始めています！

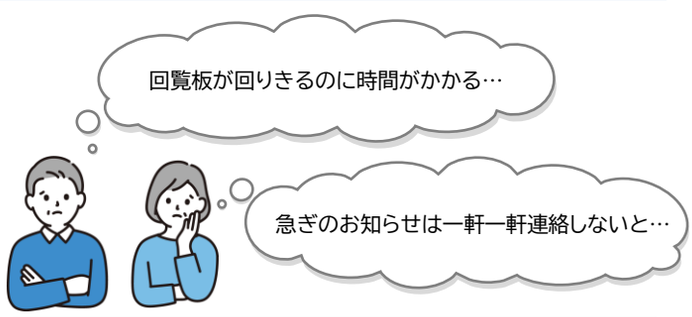
自治会・町内会向けSNS「いちのいち」とは…？

自治会・町内会における担い手不足や、活動における負担感など、地域が抱える課題を解決するため、小田急電鉄が開発した自治会・町内会向けのＳＮＳです。

回覧板の代わりに、電子回覧板機能を使って一斉に情報を共有できる機能や、地域活動のスケジュールをスマホやパソコンからいつでも確認できる機能など、地域活動に特化した便利な機能が備わっている便利なコミュニケーションツールです。

京都市と小田急電鉄は連携協定を締結し、「いちのいち」をご活用いただくことで、地域の自主的な活動を支援していくこととしています。

※令和5年８月末時点



デジタルツールを活用することで、
このような課題を解決できるかもしれません！
お住まいの地域でも、活用してみては
いかがでしょうか？

詳しくはこちら
京都市　いちのいち　検索

ポスター・回覧チラシの一覧等を掲載しています！

市民しんぶんと同時にお届けしているポスターや回覧チラシの一覧及びデータを京都市のホームページ「京都市情報館」に掲載しています。地域での情報共有等にお役立てください。

なお、月２回の市民しんぶんと同時にお届けしているチラシ以外にも、保健委員や消防団、小学校、児童館などからチラシが届くこともありますが、市民しんぶんが届く時期に合わせて配布いただくよう各団体へお願いしているところです。**緊急の内容以外については、他のチラシと一緒に回覧していただいて結構です。**

アクセスはこちらから！
過去のポスターや回覧チラシも
掲載しています。

●地域の皆様へお伝えいただければ幸いです。
このリーフレットの追加送付が必要な場合は、発行元までご連絡ください。
●発行元：京都市文化市民局地域自治推進室
ＴＥＬ：２２２－３０４９
ＦＡＸ：２２２－３０４２
●令和５年１０月発行
京都市印刷物　第０５４５０３号
この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！